

令和3年度事業報告書概要（東京港野鳥公園）

指定管理者：東京港野鳥公園グループ

1 管理状況

○ 適切な管理の履行

・ 便所清掃

お客様から料金をいただく有料施設として、公園に滞在する時間をより快適に過ごしていただくため、トイレの重点清掃を大幅に増加して実施しました。特にお客様が多く来園していた時期は、実施頻度を増やすなど、利用状況を鑑みた衛生管理を行いました。

・ 草刈り他、園地清掃

来園者の利用頻度や植物の育成状況に応じて、年間計画より実施を増やして維持管理をすることで、来園者にいつでも快適に過ごせる場を提供いたしました。

・ 樹木剪定

園路の通行上支障があるもの、倒木の危険性のあるもの等、利用者の安全確保や樹木の育成上必要な照度改善のため、剪定等樹木管理を増やして実施しました。

また、カシノナガキクイムシに侵されたクヌギ・コナラ等について、ボランティアと協働でネットを巻いて、他の樹木に被害が及ばないように対応しました。

さらに、自然生態園雑木林において、開園以来行われていなかった萌芽更新の計画を策定し、令和3年度は老木10本の更新を実施しました。



<ナラ枯れ対策>



<萌芽更新>

・ サービス充実への取組

窓口においては、最新のお知らせ・当日の行事情報・昨日見られた鳥情報・その他自然情報・マップ等を、デジタルサイネージや掲示等で情報提供するとともに、気持ちよくお過ごしいただけるように、常にお客様の視点に立った親切でわかりやすい対応を行いました。

○ 安全性の確保

・ 暑さ対策への取組

お客様の熱中症対策の一環として、夏場は毎日園内の暑さ指数を管理事務所受付に掲示し、注意喚起を行いました。熱中症罹患者発生時の応急対応用として、独自に経口補水液を配備するなどの対応を継続しました。

また、前浜干潟観察デッキに日除けがなかったため、お客様が熱中症にならないようにヨシズの簡易屋根を設置し、お客様の健康に留意しました。

2 事業効果

○ 事業の取組

・年間パスポートの運用

令和元年5月1日から販売を開始しましたが、コンスタントに売り上げを伸ばし、年間パスポート利用者数と年間パスポート収入は前年度と比べ大きく増となり、多くのリピーターを獲得しました。

・コロナ対策を実施しながら工夫して実施した事業

東京港野鳥公園フェスティバルの代替として、オンライン講演「未来のために知っておきたい海とプラスチックの話」を実施したほか、里地里山フェスティバルの代替として、オンライン講演「世界の中心でカアと叫ぶ」や「はつか大根収穫祭」、ネイチャーセンターでの展示会・写真展を実施しました。

観察会形式のイベントの代替としては、干潟の生きもの図鑑アプリ、公園で見られる生きもの動画をホームページに掲載しました。また、時間や人数を制限した上で、潮入りぐるっと観察会・公園探検隊・干潟観察会・レンジャーとまわるミニガイドツアー等、コロナ対策を取りながら多くのイベント等を実施しました。

・木製テーブル・ベンチ等の一斉リニューアル

コロナ禍による臨時休園期間を有効活用し、屋外テーブル・ベンチ等の一斉リニューアル作業を直営で実施しました。お客様が快適にご利用いただけるよう、古く色がくすんでいた屋外木製テーブル、ベンチの表面をやすりで磨いて滑らかにし、ニス塗ることで、見た目を整えました。



<木製テーブル・ベンチ等のリニューアル>

・ARの導入

野鳥公園で観察できる野鳥38種について、スマホをかざすだけで写真と説明を見られるようにしました。



<ARの導入>

○ 利用の状況

新規来園者や公園の愛好者・支援者獲得に向けた各種取り組みや、積極的に情報発信を行った結果、令和3年度は、前年度を大きく上回る利用者のご来園がありました。

○ 行政目的の達成

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための取り組み

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、お客様・公園スタッフの安全、健康管理を徹底しました。実施した対策は、お客様の体調確認（検温）、飛沫防止パネルシート設置、感染防止徹底宣言ステッカーの掲示、新型コロナ見守りサービスの導入、券売機前待機列場所へのソーシャルディスタンス確認マークの設置、巡回時テーブル・イス等の消毒、双眼鏡貸出し後の消毒などです。

3 収支状況（単位：千円）		
項目		金額（税込）
収入計		134,756
内訳	指定管理料	134,756
	利用料金	0
支出計		130,073
収支差		4,683

※ 単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。